

豊肥保健所(竹田市・豊後大野市)感染症情報

令和7年第38週 (9月15日～9月21日)



新型コロナウイルス感染症が減少しました

今週は定点あたり9.00人から6.00人と減少しました。大分県全体では定点あたり12.69人と、先週の13.14人より減少しましたが、引き続き流行発生注意レベルとなっています。少数ですが、インフルエンザの報告もありました。基本の感染対策（手洗い、うがい、換気、咳エチケット）は同じです。感染を拡大させないように、引き続き気をつけましょう。

伝染性紅斑が増加しました

今週は定点あたり0.67人となり、先週の0.33人より増加しました。大分県全体では定点あたり3.64人と、先週の4.33人より減少しましたが、流行発生警報の終息基準値（定点あたり1.00人）よりまだまだ高い状態が続いています。

大分県では、第23週（6/2～6/8）に流行発生警報開始基準を超えてからも、報告数が多い状態が続いています。

伝染性紅斑はリンゴ病とも呼ばれ、頬に特徴的な発しん（紅斑）が出現します。発しんがでる7～10日前に微熱やかぜ様の症状が現れ、その時期にウイルスの排泄量が最も多くなるため、二次感染予防が難しい感染症です。日頃から、咳エチケットや手洗いなどの基本の感染対策を行うことが重要です。

また、伝染性紅斑に感染したことがない女性が妊娠中に感染すると、胎児にも感染し胎児水腫などの重篤な状態や流産のリスクとなる危険性があります。発熱後に発しんが出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関へご相談ください。

9/24～9/30は、結核・呼吸器感染症予防週間です

長引く咳・痰は結核を疑って早めに受診しましょう。呼吸器感染症の予防には、日ごろの手洗い・咳エチケットが重要です。



(第38週)

疾患名 年齢	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱 (プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘 (みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑 (リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎 (小児科県独自)	麻疹 (全数報告)	風しん (全数報告)	百日咳 (全数報告)	つつが虫病 (全数報告)
0歳																	
1～3歳		0.20							0.33								
4～6歳		0.20							0.33								
7～9歳																	
10～14歳		0.40															
15～19歳		0.40															
20歳以上	0.20	4.80				0.33											
今週	0.20	6.00				0.33			0.67								
70歳以上 (再掲)		2.60															
先週		9.00	0.67		1.00	0.33			0.33							2	

*指定された医療機関（定点）から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上しています。（定点医療機関数；インフルエンザ5定点 小児科3定点）

	疾患ごとの警報・注意報の基準値		※単位は定点あたり報告数
	流行発生警報	流行発生注意報	
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30	10	10
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

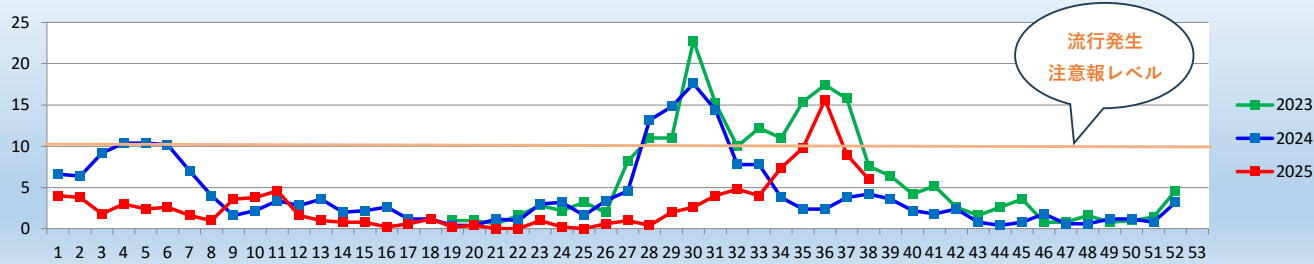
★ R5.8月1日より大分県は新型コロナウイルスの流行状況を、季節性インフルエンザの警報・注意報を準用してお伝えします。

	警報レベル	注意報レベル	注意報レベル
新型コロナウイルス	30以上	20以上30未満	10以上20未満

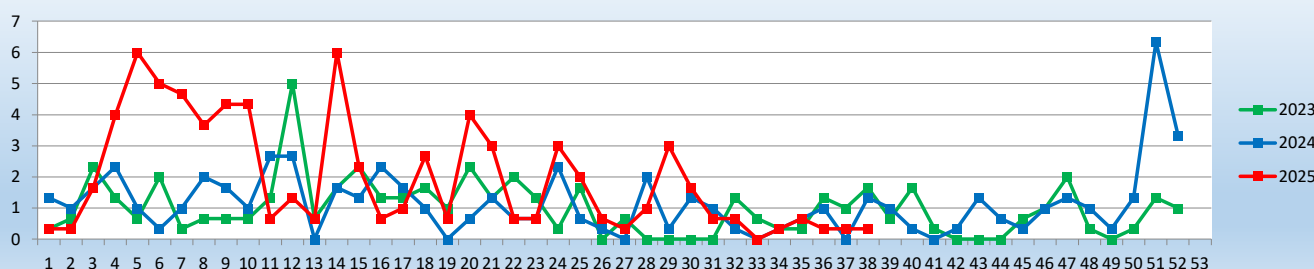
※警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを指します。注意報レベルは、流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いことを、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

豊肥管内 過去3年間の発生動向

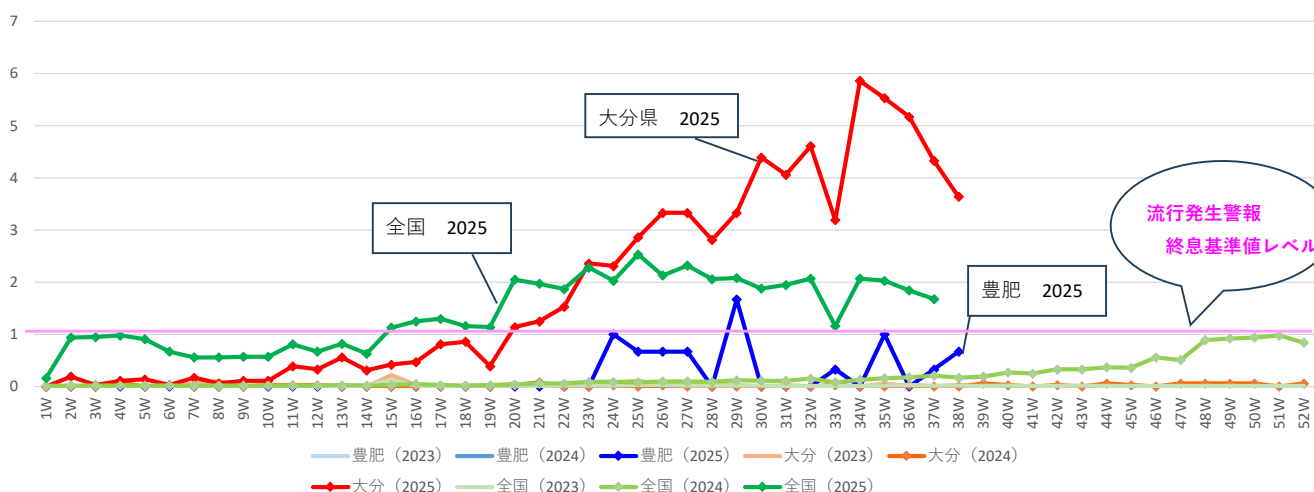
定点当たり報告数 新型コロナウイルス感染症



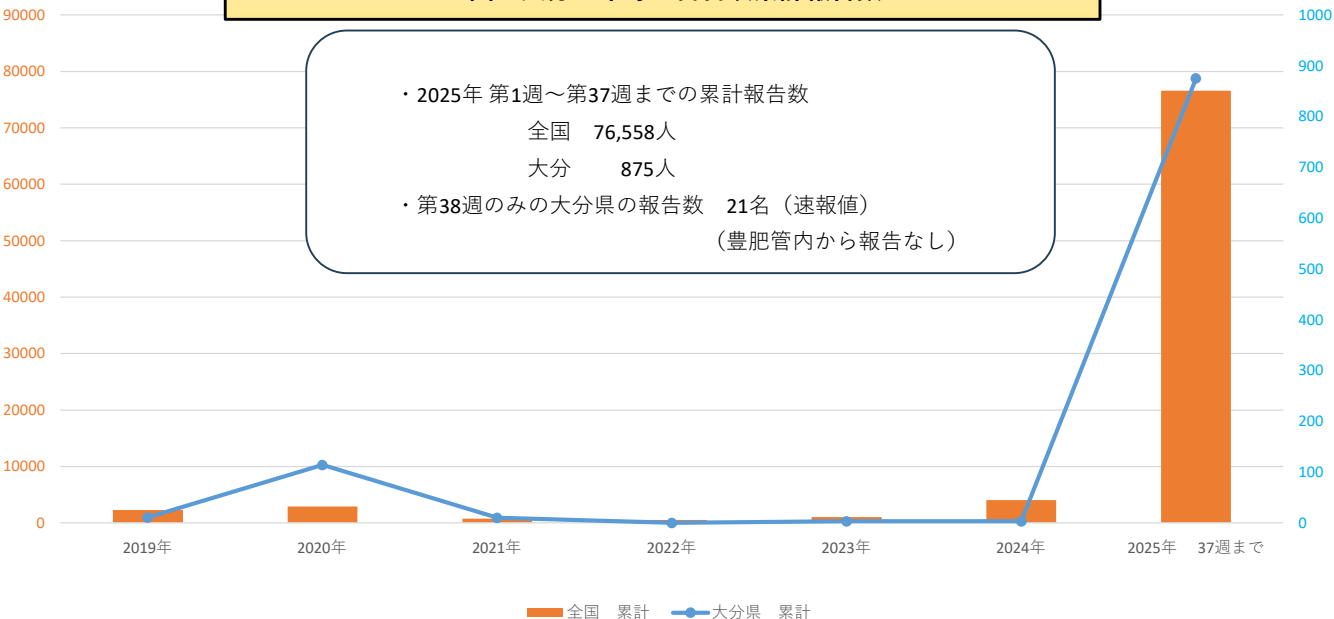
定点当たり報告数 感染性胃腸炎



伝染性紅斑定点あたり報告数 過去3年の推移 豊肥・大分県・全国



全国・大分 年毎の百日咳累計報告数



でんせんせいこうはん

伝染性紅斑

両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれる小児に多い感染症です。



10～20日の潜伏期間の後
微熱・かぜに似た症状
この時期にウイルスの排出が最も多くなります。



こんな症状がみられます

ほっぺたがリンゴのように
赤くなります（紅斑）

発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。発しんは1週間程度で消失しますが、中には長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再び出現したりすることがあります。

予防と対策

手洗い、マスク着用など

基本的な感染症対策を心がけましょう！

伝染性紅斑の主な感染経路は、「飛まつ感染」と「接触感染」です。こどもを感染から守るため、周囲の人も基本的な感染症対策を心がけましょう。

妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまで伝染性紅斑に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や、流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出るなど、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は、医療機関に相談しましょう。また、感染しても症状がないこと（不顕性感染）もあるため、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、妊婦健診の際に、医師に伝えてください。



詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください

 厚生労働省

感染症対策課 2025年5月作成



長引いた 咳に結核

疑って
早い受診につなげよう

1年間で(2024年)

新登録
患者数

10,051人

死亡者数
(概数)

1,461人

早期発見

結核



せき・たんが2週間以上続いたり、
微熱や体のだるさが続く場合は、
早めに医療機関を受診しましょう。

予防

呼吸器感染症



換気、手洗い・手指消毒などの
基本的な感染対策が有効です。

また、感染予防として
マスクの着用が効果的です。

インフルエンザ
新型コロナウイルス
ウイルス感染症
細菌性肺炎 など

手洗いマスク
習慣づけて
防ごう呼吸器感染症

国



やと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

国



内閣府感染症危機管理統括庁
文部科学省

厚生労働省 結核

検索

